

---

第 357 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2016 年 12 月 8 日(木) 17 時 30 分～19 時 00 分

場 所: 実習館 2 階 総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 井上 誠 氏(新潟大学大学院医歯学総合研究科

摂食嚥下リハビリテーション分野・教授)

タイトル: 摂食嚥下障害の臨床に関わる歯科基礎医学

超高齢社会において嚥下障害に苦しむ患者数は年々増加しているが、その一方で摂食嚥下リハビリテーションをはじめとする適切な臨床介入によって良好な経口摂取を取り戻せるケースもある。摂食嚥下リハビリテーションを実践している医療従事者には、医師や療法士だけでなく歯科医師も含まれる。口腔機能や咀嚼機能といった歯科に関わる臨床領域が摂食嚥下機能全体に与える影響を考慮して、口腔をゴールとするのではなく、「食べる」を支援することを念頭においた 歯科臨床が望まれる。

歯科が摂食嚥下リハビリテーションに関わるきっかけとなったのは、要介護高齢者への口腔ケア実施による肺炎予防への貢献にある。口腔ケアの主たる目的が、口腔内の衛生状態の改善にあることはいままでもないが、近年、口腔内への刺激による摂食嚥下機能に関わる中枢の改善を示唆する基礎・臨床研究データが報告されている。末梢への温度、機械、化学刺激がもたらす摂食嚥下機能への効果を通して、これらの臨床的意義を考えたい。一方、摂食嚥下障害の臨床に対する歯科医療の最も大きな貢献は、咀嚼機能回復、すなわち運動機能改善を目指したアプローチである。よく噛み(咀嚼-唾液反射)、よく味わい(味覚反射)、おいしい食べ物を想像して唾液を出すこと(条件反射)が重要である。歯科に関わる摂食嚥下障害のキーワードは刺激と咀嚼にある。

担当: 顎口腔機能制御学講座 増田 裕次